



この度、数年ぶりにVIEW next 編集部に戻ってまいりました。今号の取材で伺った茨城県・私立東洋大学附属牛久中中学校・高校では、生徒たちが授業でタブレット端末を自然に活用していて、現場の大きな変化を目のあたりにしました。写真は、同校の図書館です。天井が高く、日差しが降り注ぐ気持ちのよい場所で、昼休みには生徒たちが本を囲んで談笑する姿が。私にとっても見慣れた風景にホッとした気持ちになりました。

人は人との交わりの中でしか育たない—尊敬する先生のお言葉の一部です。私もこれまで先生方にたくさん育てていただきました。社内外のメンバーからの支えも実感する日々です。社会状況に応じて変わるものもあれば、決して変わらないものもある。いただいたご縁に感謝を忘れず、私にできることでお返ししていきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。(青木)



VIEWnext
電子ブック 高校版は

電子ブックで閲覧できます

『VIEW next』高校版、『VIEW21』高校版2020年4月号以降の記事は、電子ブックでご覧いただけます。ウェブサイト『VIEW next ONLINE』でご確認ください。

HOME → 学校教育情報誌『VIEW next』
→ 高校版バックナンバー

<https://view-next.benesse.jp/>

VIEWnext

高校版 2023年6月号

6月20日発行

(予定)

『VIEW next』高校版は
年6回の発行です。
次号、創刊400号を迎えます!

先生方からのご意見を
紹介します

Reader's VIEW

2023年2月号へのご意見

生徒の視点も踏まえた学習評価を目指す

観点別学習状況の評価の充実に向けて、本校においても、夏季休業中と冬季休業中に校内研修を行った。教師間で共通理解を図りながら、各学期の学習評価の状況を分析して軌道修正をするとともに、課題を明らかにして、今後の改善策を検討してきた。そうした中で、2月号の特集を読み、これまでの本校の取り組みは、教師の視点の一方であったことに気づかされた。これからは、生徒の視点も踏まえた評価を考えていきたい。

兵庫県 匿名希望

教師と生徒の評価をどうすり合わせるか

学習評価に関する今の悩みは、教師が行う評価と生徒の自己評価とのすり合わせである。2月号の特集には、具体的な生徒への伝え方やそれによる生徒の変容が描かれており、改善を模索する各校の姿があった。それを励みに、本校なりの方法を見つけたいと思った。

長野県 匿名希望

風通しのよい、挑戦できる環境づくりに尽力したい

2月号の「輝く学年団を訪ねて」の記事を読み、情熱を奮い立たされるような思いがした。同じ学校に長い間在籍し、経験を積んでいくと、前例を踏襲しがちになってしまったり、最初は違和感があったことも、あたり前になってしまったりすることがある。長野県小諸高校の生駒圭一先生の「新しいことも恐れずにやってみよう」という情熱は、とても大事だと感じた。また、新しいことに挑戦することができ、失敗しても受け入れてくれるような風通しのよい学校文化や、チャレンジングな主任がいる環境は、とてもよいと思った。自分もそのような環境をつくっていけるように尽力していきたい。

静岡県立吉原工業高校 松山 陸

メンター制度の話題提供として、教師皆で読む予定

若手教師の多い本校では、「マイ・ストーリーを語る生徒を育む進路指導」を参考にしている。「2年次 推薦型選抜の準備」がテーマだった2月号も、メンター制度についての話題提供として、教師皆で読もうと考えている。大学入試は、選抜方式にかかわらず、生徒が自分を見つめて成長する機会となる。メンター制度によって生徒と教師が丁寧に対話する機会を設けることで、「自分に足りないもの」を生徒自身に気づかせる指導が参考になった。

静岡県立小山高校 美那川 雄一

自分と向き合うことが苦手な生徒への指導のヒントに

2月号の「クローズアップ! 就職指導」を読み、「自分を知り、自分を育てる2つのシート」を本校でも活用したいと思った。年々、教師が生徒に「なぜ?」と問う必要性が増しているように感じる。自分のことについて考えるよう、生徒に伝えても、「面倒くさい」といった言葉が返ってくるが増えた。同シートを活用すれば、自分と向き合うことが苦手な生徒でも自己分析をしやすいのではないかと考えた。

富山県 匿名希望